

高校生の 姿から考える

何が学びの意欲を高めるのか

「社会貢献意識」と「学び」をつなぐ試み

「高校生未来プロジェクト」では、高校生の生の声や姿を丁寧を追ってきた。プロジェクトの直後と、その後の彼らの様子から、高校生の学びの意欲向上の手がかりを探る。

「高校生未来プロジェクト」から見えること

「学び、社会、自分」の語り合いで変容する高校生の姿

社会に対してかわっていききたいという高校生の思いは、学びという具体的な行動につながるのだろうか？
学びの意欲を研究する「高校生未来プロジェクト」の概要を紹介する。

学びの意欲を高める 実践的な研究をスタート

「高校生未来プロジェクト」（正式名称「ポスト3・11 高校生未来プロジェクト」）は、2012年3月の第1回ワークショップ開催によってスタートした。2011年3月の東日本大震災を経て、全国の高校生が「これからの社会を自分たちでどう変えていくのか」「そのために何をすべきか」を2日間にわたって議

論した。社会のために何かをしたいと熱望する高校生の姿は、ベネッセ教育研究開発センターの調査からも明らかになっていた「高校生の社会貢献意識の高まり」（P.7参照）を裏付けるものでもあった。

一方、第1回ワークショップを通じて、社会貢献意識が日々の学びという具体的な行動につながっていない高校生の現実も見えてきた。そこで、ベネッセ教育研究開発センターでは、学びの意欲研究の1つとし

ワークショップの大まかな流れ

1日目

- 13:00 ワークショップ開始
- 13:20 自己紹介、参加理由、期待などを共有
- 13:35 大切にしている価値観、問題意識を共有
- 14:00 「高校での勉強」「大学での学問」「社会貢献」「未来・将来の自分」について気になっていることを書き出し、語り合う
- 15:05 語りたいテーマを選んでディスカッション
- 16:30 オックスフォード大・荻谷剛彦教授講義「学問と社会のつながり」
- 18:00 大学生・社会人とのセッション「学問・勉強と今」
- 20:00 1日目終了/宿舎へ移動

2日目

- 9:30 実現したい社会と、そのための貢献についてディスカッション
- 10:45 大学の学問と、高校の勉強の意味・価値についてディスカッション
- 13:00 学びの目的をシートに記入、共有
- 13:40 半年後の自分への手紙を書く
- 14:00 ワークショップの感想、気付き、そして「自分にとっての学び」を一言ずつ発表
- 15:00 全プログラム終了

て「社会と学びのつながりを実感することが、高校生を具体的な学びの行動に向かわせる」という仮説を立て、仮説検証の一環として、第2回ワークショップとその後の学びの意欲の変容の追跡調査を企画した。

第2回ワークショップのテーマは、『学び』がボクらを、社会を変える」と決定。オックスフォード大学の荻谷剛彦教授の企画協力の下、全国から34人の高校生が集い、社会と学びとのつながりについて考える2日間のプログラムが実施された（詳細はとじ込み参照）。

ワークショップ終了直後のアンケートでは、生徒たちの学びの意欲が高まったという結果が得られた。更に3か月後の調査では、ばらつきはあるものの、学びの意欲は持続されている様子が見えてきた。

自分を見つめ、他者と語り合うワークショップが、なぜ学びの意欲を向上させたのか。ワークショップ当日のリポート、更に3人の参加高校生の振り返りから、その背景にあるものを探っていきたい。

ワークショップ後の高校生の姿

数字で見る変化

終了直後

2日間のワークショップを通して、学びに対する思いや、大学で学びたいことに変化はありましたか。

どちらも言えない・
分からない 0%

変化はなかった
2.9%
(1人)

変化があった
97.1%
(33人)

3か月後

ワークショップ直後のあなたの学びに対する意欲を「100」とすると、3か月経った今のあなたの学びに対する意欲はいくつくらいになりますか。

度数	50	60	70	75	80	83	85	90	98	100	120	126	150	170
人数	1	1	3	1	6	1	1	7	1	2	1	1	1	1

平均は 90.6

*ワークショップ直後のアンケートは、2012年12月27日のワークショップ直後に、34人が回答したもの。3か月後のアンケートは、2013年3月7日からwebアンケートで実施。3月25日までに回答があった28人分の集計値

参加者の声に見る変化

●東京都／私立／女子／1年（当時）

終了直後

高校の勉強は社会勉強であり、将来なりたい自分を見付けられるように視野を広げるためのものだった。ワークショップを通して、自分の想いを言葉にすることの難しさ、出た意見を自分の言葉でまとめ、その場にいなかった人や関心のない人に伝えることの難しさを痛感した。自分の考えを理解してもらえるように伝えることは、人生の中で大切だけど一番難しいと感じた。

3か月後

テストや模試の前などに、皆で夢を語ったこと、20年後に実現したい社会について話し合ったことを思い出した。ワークショップを経て自分が変わったことは、目標を高く掲げるようになったこと。いろいろな人の意見を聞いて自分の理想が実現できるのはどの方面なのかを常に考えるようになった。

●広島県／国立／男子／2年（当時）

終了直後

高校の勉強は、いつかは役に立つかもしれないが、それがいつなのかはその時が来ないと分からないものだった。だからこそ、心構えをしておくという大きな意味があると思う。ワークショップで勉強の意味は十分すぎるくらい分かったので、あとは実践のみだと思う。やる気が出た。話したいことをたっぷり話せし、こんな経験はなかなかない。

3か月後

参加した人たちにメールなどをするたびに、あの時の表情や言葉を思い出す。また、勉強が行き詰まった時、荻谷先生のお話を思い出すこともあった。皆が話した夢や目標などを思い出し、自分も頑張っている。相変わらず計画性がなく、勉強をやっているとよくめげるのだが、少しは強くなった気がする。自分がやれることから取り組んでいくようにしている。